

だい しょう
第3章

ねんぴょう
年表

は ん ず せ た が や
HANDS世田谷

ねんかん あゆ
20年間の歩み

せ た が や と う じ し ゃ う ん ど う れ き し
世田谷の当事者運動の歴史

は ん ず せ た が や ねんぴょう
HANDS世田谷 年表

世田谷の当事者運動の歴史

1974年 梅ヶ丘駅を誰もが利用できるようにする実行委員会発足



梅ヶ丘駅スロープ化運動が始まる。階段しかなかった梅ヶ丘駅から、新宿などに遊びに行きたいという当事者の声をきっかけに、線路に下りて電車を止めるなどの行動をしながら、77年にホームに直接上れるスロープができるまで運動を繰り返した。

1976年 雑居まつり発足



世田谷ボランティア連絡協議会が発足したと同時に、雑居まつりを立ち上げ、いまだに継続される世田谷の一大イベントとなる。

1977年 グループたびだち正式発足



家に閉じ込められていた障害者を、障害をもった仲間が直接家に訪問して、本人や家族の声を聞きながら、家から出し、外の世界を経験してもらう活動が個人的になされていた。

1979年 身体障害者介護人派遣制度の改善を求める会発足



グループたびだちなどの動きが盛んになるにつれ、その前に大きな壁として立ちかかっているということが出てきた介助問題を、世田谷区に公的保障として要求していこうという動きが高まり、交渉を重ねていく中で職員の差別的発言がきっかけで、座り込みの抗議行動などが行われた。

1979年 自立の家をつくる会発足



求める会として公的な介助保障を要求する運動をしながら、具体的に自立生活するための介助者を地域で探したり先輩たちがそのノウハウを伝えたりしていた。